



植物 発生分野

植物の形づくりの メカニズムを理解する

私たちは植物の形づくりのしくみを研究しています。植物は、動物とは異なり、成長段階や環境に合わせて成長プログラムを柔軟に調節しながら、生涯にわたって形づくりを続けます。植物が生存戦略として進化させた成長の可塑性やしなやかさのしくみを分子レベルで解明することをめざしています。地球上の酸素、食物、燃料の大元は植物によって作り出されます。私たちの研究は、発生・分化・成長の謎に迫るだけでなく、地球環境の保全や食糧問題の解決にもつながるものです。

Lab. DATA

植物のかたちづくり、植物の旺盛な成長を支える分子基盤、環境情報による成長プログラムの制御

経塚淳子 教授

楢本悟史 助教

<http://www.lifesci.tohoku.ac.jp/PlantDev/>

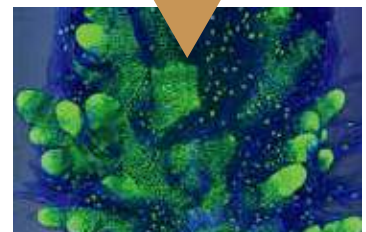


在学生 Interview



修士2年
水野 陽平

私はこの研究室に入って、ゼニゴケというシンプルで原始的な陸上植物に魅力を感じ、ゼニゴケを用いて植物の成長を制御するホルモンの起源について研究しています。植物は陸上で生きていくためにどんなしくみを獲得し進化してきたのか、ゼニゴケを使えば解明できるのではないかと考えています。



イネ、シバ、ゼニゴケ、ヒメツリガネゴケなどを用いて、成長を制御する遺伝子のはたらきを調べます。写真は、GFPを分子マーカーとして可視化したイネ穂形成遺伝子の発現です。